



売上げの一部を寄付 「募金百貨店プロジェクト」覚書調印式

1月23日、みさと福祉センターで秋田県共同募金会（菅義雄会長）の活動に賛同する企業などが売上げの一部を寄付する赤い羽根共同募金「募金百貨店プロジェクト」覚書調印式が行われました。プロジェクトには美郷温泉振興会などの町内9企業が参加。料理や体育着などの商品や工事のサービスの売上げや件数に応じて、各企業が寄付を行います。

調印式には菅会長と各企業の代表者らが出席し、覚書に署名。菅会長は「この取り組みは、地域の企業や商店と商品を購入する人、福祉関係者の3者にとって三方良しの関係を目指したプロジェクト。自らの町を良くしたいという趣旨に賛同してもらい感謝している」とあいさつしました。

ご長寿おめでとうございます 矢川キクノさんが満100歳に

1月30日、満100歳の誕生日を迎えられた矢川キクノさんのもとを松田町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。

贈呈式には親族や施設利用者の皆さんが出席し、長寿を祝福。親族や施設職員から花束やくす玉、誕生日カードなどのプレゼントが行われると、手を合せて喜んでいました。長寿の秘訣は「何でも食べる」という矢川さん。「これからもみんなと楽しく仲良く暮らしたい。今日はありがとうございました」とあいさつすると、出席者から大きな拍手が送られました。矢川さん、満100歳のお誕生日おめでとうございます。



地域全体で子育てに参加しよう 親力アップ講演会

2月7日、美郷町中央ふれあい館で岩手大学教育学部の新妻二男学部長を講師に招いた「親力アップ講演会」が開催されました。

新妻学部長は、1970年代以降の子どもを取り巻く環境について、衣食住や情報などの物質的な面が過剰になっている一方、異年齢集団での遊びや家族や近隣等との人間関係などのヒトと関わる面が減少している点を指摘。「ヒトがヒトを育てるからヒトになる」とし、子どもに積極的に関わることの重要性を訴えました。また、「親の責任が叫ばれるようになったのはごく最近のこと。昔は地域で子育てをしていた。親だけが頑張るのはなく、祖父母や地域の人も子育てにもっと参加してほしい」とし、地域全体で子育てに関心を持つようアドバイス。集まった約60名の参加者たちは、メモを取るなどしながら熱心に耳を傾けていました。



JAL“鶴の恩返し” 地域貢献活動ウインターキャンプ

2月14日から15日にかけて、JAL“鶴の恩返し”地域貢献活動ウインターキャンプが開催されました。昨年7月に行った水環境保全キャンプで町の人々から受けた恩を返したいと、日本航空の社員16名が来町し、町民ボランティアらとともに地域貢献活動に汗を流しました。

初日は、美郷町北ふれあい館で歓迎セレモニーを開催。同社の武井真剛部長が「昨年度の参加で除雪などの雪国の大変さを実感した。また、地元の皆さんと交流したことも思い出深い。今回も美郷町の良さを持ち帰って、東京で情報発信していきたい」とあいさつしました。その後は、一人暮らし高齢者宅の除雪や福祉施設での餅つきなどを行い、高齢者と交流を深めました。2日目には、六郷のカマクラの天筆書き体験や後三年スキー場で雪国体験を行い、美郷町の伝統行事等への理解を深めました。



第2回 町議会 臨時会



平成27年第2回町議会臨時会が2月12日に開かれました。審議された議案は次のとおりです。

可決・報告された案件

■専決処分事項の報告について

■工事請負契約の一部変更について

美郷町屋内球技場整備工事の契約金額を減額することについて議決を求め、可決されました。

■平成26年度美郷町一般会計補正予算第12号

第87回選抜高等学校野球大会に出場する秋田県立大曲工業高等学校に対する寄付金の追加、千畑温泉および仙南温泉の施設整備工事ならびに仙南小学校エアコン取替工事の追加など、歳入歳出予算の総額をそれぞれ117億8305万2千円としました。

■平成26年度美郷町国民健康保険特別会計補正予算第4号

一時性の中の永遠性

美郷町長 松田知己

風



平成26年度美郷町スポーツ賞授与式であいさつを述べる松田町長

先日ある美術展で、フランスの詩人ボードレールの文章に邂逅しました。「現在を生きる画家に求めるものは、『一時的なものから永遠的なものを抽出すること』をめざす態度である」。芸術の本質ではないかと思いました。しばし、その言葉の深みを思慮していると、ふとある記憶を思い出しました。

20年以上前、県職員として欧州に行かせてもらった際の記憶です。その研修はすべてを自分で準備する研修で、研修先や通

訳の手配、移動手段や宿泊先の確保など難儀しましたが、主目的の農業施策研修に加え、余暇時間には街を歩き、ルーブル美術館など美術館も回り、広く啓発を受けました。

思い出した記憶は、そのルーブル美術館で「ミロのヴィーナス」を見たときのことです。身じろぎせずに鑑賞しました。その理由は「美しさ」です。紀元前の彫刻が放つ「美」に、20世紀を生きる私の何かが共鳴し、美について黙考しました。その時は整理できませんでしたが、今、ボードレールの言葉に触れ、「そういうことだったんだ」と得心した次第です。一時性と永遠性、芸術の核心として紀元前から求めてきたことなのだろうと思います。

さて今月末、町では平成17年

2月の美郷町合併記念式典の際に封印したタイムカプセルを開封します。当時の町内全児童の10年後の自分に向けたメッセージ等が入っています。当時の企画の意図は、過去と現在の違いを受け止めることによって成長の実感や時間の意味、そして合併に対する認識を深めてもらうことでした。しかしよく考えてみると、もっと深い意義があるように思います。一時点での将来への期待は、純粋な子ども心であるが故に「未来」に対する期待の普遍性、永遠性が含まれているように思うからです。

成長に従い現実が見え、やや委縮した期待に陥りがちではないかと思いますが、それを排除したところにあるものこそ「期待」の核心であり、永遠性なのだろうと思います。だからこそ「童心」が大切なのだと私は思います。

その時点の自分が将来に何を期待し、また成長した自分がそれを見てどう思うのか、楽しみなどところです。大切にしたいと思います。